

# なんたん

No. **34**

農業委員会だより

平成29年10月号



新鮮野菜と弾む会話で

心わくわく

農業委員会のうごき	2・3
地域農業を支える	4
まちかど通信	5
特集	6・7
なんたんあっちこっち他	8

平成29年9月24日  
あまびき  
園部町・天引むくむく市



発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067

■E-mail [co-nougyo@city.nantan.lg.jp](mailto:co-nougyo@city.nantan.lg.jp)

■FAX 0771-63-0654

■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

# 農業委員会のつどき

## 土地に根差した営農活動を学ぶ (管内視察研修: 犬甘野営農組合)



▲法人について説明を受ける委員

8月28日、**亀岡市西別院町**の「農事組合法人 **犬甘野営農組合**」へ、視察研修に行きました。

はじめに、**犬甘野営農センター** 研修室において、**向條一郎**同組合事務局長より、組合の設立から現在までの取り組み、現状と課題などについて説明を受けました。その後、意見交流を行いました。

**犬甘野営農組合**は、昭和63年、ほ場整備事業の換地処分の際に、土地改良設備（農道・水路等）を

管理する公的な団体が必要なこと、また農業機械の共同利用による農作業の効率化を目指すことから設立されました。

主な事業として、①農作業の作業受託、②農地利用集積の推進、③米・野菜などの販売、④そば食の販売、⑤消費者との交流、を柱に事業を推進し、地域の活性化や生まれ・育ち・育んできたふるさとを次の世代に引き継ごうと努力してこられました。その中で、そばの加工販売、地元産米の販売については、安定した経営基盤を確立させることが大切であると力を入れて取り組まれた結果、収益が増加しました。そば食は府内でも好評で、販売額が大きく伸びています。

意見交流のあと、**飲食店と直売所**の「**犬甘野風土館季楽**」で直売所や飲食店の様子などを見学しました。

先進的に取り組まれた農事組合法人であっても、役員の高齢化や世代交代への悩みは深いようで、農村の在り方について深く考える視察となりました。

(取材・平野清久委員)



▲直売所には地元産の野菜が並ぶ



▲地域の湧水で栽培された米

## 集落全体で無理せず継続して取り組む対策が重要 (野生鳥獣から農地を守る研修会)



▲熱心に聞き入る受講者

6月20日夜、南丹市日吉町生涯学習センターで、「野生鳥獣から農地を守る講演会」を開催しました。京都大学農学研究科講師の高柳敦<sup>たかやなぎあつこ</sup>さんが、「鳥獣害対策の基礎と実践―獣害は確実に止められる―」と題した講演を行い、市内の農業者など約160名が参加しました。

高柳さんは、シカ・サル・イノシシ・クマなどの野生動物の生態にあわせて、被害判定や確実な防除方法の指導・実践を長年行っています。また、美山町の芦生<sup>あしう</sup>研究林に動物が侵入できない柵を設置し、植物の自然な再生で森をよみがえらせる実証実験を行っています。



▲実践例を紹介する高柳さん

講演では、野生動物の防除に対する考え方、動物の種類で柵の設置方法、柵設置後の補修・見回りの手順、柵の点検の時期と目的など、実践に基づいた細やかな説明がありました。野生動物の存在を認めたと上で、鳥獣の生態・行動に応じて柵を作り、さらに侵入防止の対策をとること。柵を一度でも突破されるとその部分から動物が入りやすいため、設置後のこまめな点検・補修が大切であること。日々個人が本気で取り組む意識を持ちつつ、集落全体で積極的な防除に取り組むことが重要と語りました。

講演後、地域の抱える問題についての具体的な質問が参加者から多く出ました。講師が誠実に返答し、熱気のある時間となりました。

(取材・小林義雄委員)

## 農業委員による 番組放送中!

農業委員が地域の皆さんへ情報発信する数分間の番組を「なんたんテレビ」(CATV・11CH)で放送しています。偶数月の第3土曜日から第4金曜日の週報(1日数回)です。ぜひご覧ください。

### 【今後の放送予定】

- 12月16日(土)～22日(金)週報
- 2月17日(土)～23日(金)週報



## 農地の現況を確認(荒廃農地状況調査・農地パトロール)



▲農地の荒廃状況を確認する委員

7月11～15日、農業委員と事務局職員・農政課職員が、担当地区を中心に巡回し、荒廃農地状況調査と農地パトロールを実施しました。平成28年度の耕作放棄地や、農地法に基づく許可などを受けた土地の利用状況の確認、優良農地の実態調査、無断転用や遊休荒廃農地の早期発見等、農地をめぐる現状把握を行いました。そして、調査の結果について、旧町ごとの委員で集まり、地域別検討会を開催、各農地の状況について話し合いました。

また、調査結果により、必要に応じて農地所有者の方へ利用意向調査などの通知を送付しました。

# 地域農業を 支える

あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する  
団体・個人を紹介します。

## 農事組合法人 **アグリくまざき** (南丹市園部町熊崎)



「農事組合法人アグリくまざき」は、平成29年4月23日に設立総会を開催し、農業法人としてスタートしました。熊崎地区では、平成15年から集落営農の勉強会を開始し、平成18年に熊崎農家組合営農部会を立ち上げました。農地の集積を進めながら、法人化に向けてさらにアンケートや先進地視察などを実施しました。

熊崎地区の現状は、農家数が46戸で、大半が兼業農家です。高齢化が進み、農業の担い手不足や長引く米価の下落などにより耕作放棄地の出現も心配する中、「自分たちの農地は、自分たちで守ろう」と、自作農家の方々と地域の女性の方々に積極的な参加を呼びかけました。平成28年11月に農事組合法人設立発起人会を発足し、法人設立の説明会を実施。出資賛同を得ながら、37戸の農家でスタートしました。

当面は、水稻栽培による生産や販売を中心に、今後はクリの栽培、農産物の生産・加工・販売にも取り組みを進め、より高い収益性を目指した法人経営を計画しています。

また、6月には参加組合員の女性集会を開催しました。「アグリ・レディース」として女性部で年間の活動を行い、農産物加工のレシピや各家庭の味の伝承などを計画しています。

今後、集落の活性化を図り、農地・農業を守る集落の担い手として、地域で取り組んでいきます。

(文書：東野裕和さん 取材：高屋安男委員)



**「京都桑田村」  
地域おこしに奮闘中  
(美山町豊郷)**



▲桑の葉の手入れをしながら話を聞く

また同地区には農地を守るため「らくらく楽草」と名付けた畦草刈りシステムがあります。(耕作できなくなった地主・借主・農事組合が資金を出し合って年4回の草刈りを行い農地を守っています。)

農山村の先行きは不透明な面が多いですが、様々な創意、工夫、努力でふるさとを守ろうとしている柿迫さんや豊郷地区の方々の話を聞き、私も元気になりました。(取材：中野貞一委員)

美山町豊郷地区にはNPO法人「京都桑田村」という活動組織があります。「村」の中心的役割を担っておられる柿迫義昭さんを訪ねました。地元公民館や住民との協働による地域活性化活動にまい進されている方です。

老人クラブ、婦人会、壮年会の活動が難しくなっていく中で、その3者の方々を主なメンバーとして一つにまとめた組織を立ち上げ、森林保全活動などを通じて「コミュニティを存続させたい」「都市交流で元気を取り戻したい」との思いで、平成26年10月に「京都桑田村」を設立平成28年4月1日よりNPO法人化しました。現在60歳以上の方45名の会員で活動中です。教育に養蚕を取り入れている「たかつかさ保育園」(京都市北区)と桑の栽培を通じて交流を継続し、平成27年4月には京都MFプラットフォームの協定を取り交わし、日本きものシステム協同組合との交流、古民家を改修した「農村・都市ジョイントセンター」の開設(平成27年10月)で交流拠点を確保し、持続的に幅広く活動していきます。「京都桑田村だより」も発行し、住民の絆を深める努力も行っています。これらの活動により、住民の方は徐々に元気を取り戻しています。

**カフェべんべん**

場所：南丹市日吉町胡麻赤坂7-1  
電話：080-8941-8527  
定休日：水曜日(祝日の場合は営業、翌日休み)  
営業時間：9:30-17:00(ランチ11:00-15:00)



カフェべんべんは、平成28年11月10日に日吉町胡麻で開業しました。地元野菜中心のランチ、手作りケーキ、こだわりコーヒーのお店です。

妻はジュニア野菜ソムリエの資格を持っており、野菜のおいしい料理方法を日々研究中です。地元の方が「こんな料理は初めて」とびっくりされることもあります。お店の裏には小さな畑があり、無農薬の採れたて野菜も料理に使っています。

私は、神戸のコーヒアカデミーでコーヒーフロフェッショナルの資格を取得しました。自身で豆の選定・焙煎・配合したブレミアムブレンドは、深い味わいのおいしいコーヒーです。カクテルシェーカーを使って泡立てたカフェエシケラートという、他の店では見かけないまろやかなアイスコーヒーもあります。

店舗併設の自宅では、私の父親、妻の母親と同居しています。介護をしながらの店で大変ですが、そのことでこのお店が高齢者や障がい者にやさしい場所となるよう心がけています。

地元の方々の憩いの場所になることを目標に、毎日お客様をお迎えしています。

(文書：マスター 山下裕司さん)



# 特集



## 里の文化と暮らし

美しいふるさと・神吉を

かみよし

子どもたちに残したい

八木町神吉

須賀

智昭さん

惣子さん



須賀さんご家族

南丹市日吉町

の日吉ダムから  
府道50号線をダ  
ム湖を左に見て  
進み、「府民の  
森ひよし」の入  
り口を右に見て  
車で約15分。長  
く続く峠道を登  
りきると、広大  
な農地が広がり  
ます。山の上新高度300mのここ  
ろに盆地があり、自然豊かで美し  
い田園風景の広がる神吉は、約  
180世帯の集落です。

須賀さん夫婦は、平成25年に京  
都の宇治市から家族で移住され、  
現在2人の子ともと4人暮らしで  
す。農園neeguを開設し、約4  
haの農地で水稲と野菜を耕作して  
います。高校を卒業後、生花店で  
10年間勤務し、フラワーデザイン  
の仕事の求めてフランスに海外留  
学しました。農業大国での約1年  
の間に、牧場経営の実体験や有機  
栽培の野菜作りなど、農業体験の  
機会を得ました。そして「日本に  
帰ったら、農業を始めよう」と思



無肥料栽培を実践中です

うようようになりました。

水稲は、コシヒカリ・ササニシ  
キ・もち米を栽培しています。府  
内に限らず、主に都市部の飲食店  
に出荷しています。将来は、こ  
の地で農家レストランを開設し、  
培ったフラワーデザインも手掛け  
て運営する計画をしています。

神吉に暮らして4年。地域の人の  
温かい心遣いや家族の支えに感  
謝し、里の文化の香りが残るこの  
地で頑張れることに誇りを持って  
います。子どもたちに、この美し  
いふるさとを残せるよう、暮らし  
ていきたいと語ってくれました。

(取材：梅津義明委員)

# 平成30年7月1日からの農業委員会体制について

平成28年4月1日に改正農業委員会法が施行されました。

農業委員会は、農地等の利用の最適化(担い手への農地の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進)の推進に取り組む体制が強化されました。

## 農業委員

公選制(選挙)が廃止され、地域推薦・公募により、市議会の同意を得て市長が任命することとなりました。認定農業者、農業以外の中立者、女性・青年農業者など、地域の農業をリードする担い手を登用します。

## 農地利用最適化推進委員

新たに設置され、担当地区を定めて農業委員会が委嘱します。



### 農業委員

- 農地転用、権利移動など農地法に基づく業務
- 担い手への農地集積・集約化
- 耕作放棄地の発生防止、解消の推進など



### 農地利用最適化推進委員

- 農地の利用状況調査・意向調査
- 農地適正利用のための現地活動
- 農地の貸し手・借り手のマッチング
- 新規参入者への支援活動など

南丹市では、**平成30年7月1日**から上記の体制となります。平成30年度からの体制に向けて、条例の制定や業務内容・募集に関することなどの準備を進めています。委員の人数や報酬、募集の時期や内容については、今後決まり次第、南丹市の広報紙や、市役所・農業委員会のホームページなどでお知らせします。

## 貸し借り 安心!

## 利用権設定

農業経営基盤強化促進法に基づいて農地貸借の手続きをしましょう。



**利用権設定とは** .....  
 農地を貸したいという農家と農業経営規模の拡大を図りたいという担い手との間で、安心して農地の貸し借りができる事業です。  
 手続きが簡単で、農地法の許可は不要です。(市街化区域外の農地が対象)

- 「利用権設定」のメリット**
- ・ 契約期間が終了すれば、離作料を支払うことなく、自動的に地主に農地が返ってくる。
  - ・ 公的機関「農業委員会」が仲介し、安心して農地の貸し借りができる。

## 全国農業新聞

**を購読しませんか**  
 農業経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門紙です。農業者の視点で、さまざまな情報をお届けします。

週刊/月4回金曜日発行  
 月額700円(税込)

なんたん

# あっちこっち

とにかく広い南丹市。  
南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。  
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介しします。



## 「氷所のかかし祭り」(かかしコンクール)

八木町の東部、旧船井・北桑田・南桑田3郡の界「龍王ヶ岳」を背に氷所地区があります。市内有数の穀倉地帯で、約90haの田畑を有した約130戸が生活を営む農村集落です。平成25年度にはほ場整備事業が完了し、次代に送る農業基盤が整い、生産組合組織も活動しています。

平成19年度から、氷所地域にあるものは、農地・農業用施設はもとより、住む人もまた資源であると位置づけ、「氷所地域資源保全委員会」を組織しました。平成24年度からは、子供会や育友会を中心に、「自分の住むところを知ろう」、「農業用水と周辺地域」、「農作業と食」をテーマに交流学習を行いました。そうした中で、今一度老若男女が集い、語り合い、交流を図る中で、氷所の現状を知り、集落の在り方をもとに考える必要があります。平成28年度、一つの物(かかし)を作る作業を行い、農村文化に触れながら「ふるさと氷所を守り育てる意識」の高揚を図るため、かかし祭り(かかしコンクール)を開催しました。作る喜びとともに、語り合う楽しさがあったと好評で、平成29年9月、2年目の開催となりました。9月3日からの展示期間には、昔ながらのかかしのほか、子どもや女性、有名人やキャラクターを表現した、個性と工夫のあふれる力作22作品が、実りの秋に稲穂が垂れるのを見守りました。

(氷所地域資源保全委員会 人見日出男さん)



▲お地蔵さんと子どものかかし



▲ため池に展示されたかかし

## 委員ぶらり旅

旅人：中野貞一 委員

## ブルーベリー農園「喜楽園」

(京都府木津川市山城町)

7月16日、友人が木津川市で農園を経営していると聞き、近所の友人8名でブルーベリー狩りに出かけました。約50aの農園に、千本のブルーベリーがぎっしり栽培され、実もたわわに実っています。入園料2千円でバケツいっぱい約3kgを持ち帰れます。次々とお客さんが来ましたが、農園が広いので、どこで摘んでいるのかわからないうらばいになりました。「孫や家族へのよい土産になった」、「ジャムにしよう」、「近所にもあげよう」、「来年もぜひ来たい」など話は弾み、笑みが絶えませんでした。

午後は久しぶりに奈良の東大寺をお参りし、鹿とたわむれた後、帰路につきました。

今回、南丹市から木津川市の交通が非常によくなっていることに驚きました。京都縦貫道、第二京阪道、京奈和道が相互に連結しており、美山町知井からでも約2時間たらずで行くことができました。

山城地方がグンと身近に感じられた1日でした。

※ブルーベリー狩りは7〜8月頃(要予約)



▲ブルーベリー摘みに笑顔がこぼれます

## 編集後記

園部町の天引八幡神社で、毎月第2・第4日曜日に開催される「天引むくむく市」。神社の大きなむくの木にちなんだ名前とのこと。毎回多くの方の活気と笑顔にあふれています。(関 隆宏 委員)

## 訃報

平成29年8月12日、南丹市農業委員 **原田均氏** (享年70歳) が逝去されました。平成21年7月から農業委員として地域農業の発展にご尽力いただきました。生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。  
※園部町天引・南八田・法京・大河内は、奥村安治委員の担当地区となります。

- ◆ 広報委員会
- 【美山町】 梅津義明
- 【園部町】 中野貞一
- 【園部町】 平野清久
- 【園部町】 小林義雄
- 【園部町】 関 隆宏
- 【日吉町】 宇野十三治
- 【日吉町】 谷口定己
- 【八木町】 波部良典
- 【八木町】 廣瀬 但
- 【八木町】 徳山憲司

